

安保 法制

集団的自衛権の具体化

2つの重大危険

開会中の通常国会は、集団的自衛権の「閣議決定」を具体化する安保法制が最大の焦点です。2つの重大な危険が浮かび上がっています。

米の戦争 支援

いつでも、どこでも「戦地」派兵

政府は、自衛隊がアメリカの戦争を支援する「2つの枠組み」を示しています。自衛隊派兵の「恒久法」と「周辺事態法」の改定です。2つに共通しているのは、従来の「戦闘地域に行つてはならない」という歯止めが外されることです。



米海兵隊との共同演習で射撃訓練をする陸上自衛隊員（米海兵隊ウェブサイトに）

派兵の「場所」「期限」限定せず

さらに、これまでは派兵の「場所」と「期限」が限定されていたのが、「恒久法」でこれをなくしてしまいます。地球のど

こでも米国が戦争を始めたら、自衛隊が「戦地」まで行って支援する — 「海外で戦争する国」づくりが正体です。

集団的 侵略

違法な先制攻撃戦争にも参加

集団的自衛権は、先制攻撃でも発動されてしまう — これが今国会で明らかになりました。「米国が先制攻撃の戦争を行った場合でも、集団的自衛権を発動するのか」という質問に、安倍首相は「個別具体的、総合的

に判断する」と否定しませんでした。

ベトナム・イラク 米国は常習犯

先制攻撃は、国際法違反の侵略行為。ベトナム戦争、イラク戦争とアメリカはその常習犯です。「集団的自衛」どころか「集団的侵略」です。

歴史 問題

アジアの国々との「和解・友好」へ 5つの「基本姿勢」を提唱

日本共産党は、戦後70年の節目の年が日本とアジア諸国の「和解と友好」に向かう年となるため、「5つの基本姿勢」を提唱しています。

- ①「村山談話」「河野談話」談話の核心的内容を継承し、談話の精神にふさわしい行動をとる。
- ②日本軍「慰安婦」問題 被害者への謝罪と賠償など、人間としての尊厳が回復される解決に踏み出す。
- ③靖国参拝 少なくとも首相や

日本共産党

閣僚による靖国参拝は行わないことを日本の政治のルールとする。

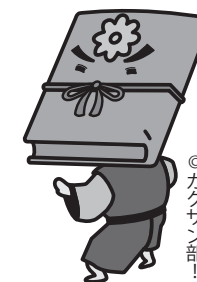


- ④ヘイトスピーチ 民族差別をおおるヘイトスピーチを根絶する。
- ⑤教科書 侵略戦争と植民地支配への反省を、学校教科書に誠実・真剣に反映させる努力を。

戦後70年談話

植民地支配・侵略戦争への反省 首相 核心を事実上否定

今年、安倍首相が発表している談話。「村山談話」を「全体として引き継ぐ」と言いますが、「植民地支配と侵略戦争」への「痛切な反省と心からのお詫び」という核心を引き継ぐとは言わず、事実上否定する姿勢です。このような立場の「談話」は百害あって一利なしです。



©カクサン部！